

あ が つ が わ
阿賀・津川地区
(新潟県阿賀町)

- 計 画 期 間 平成 19 年度～平成 23 年度
- 面 積 1,000 h a
- 交付対象事業費 475.5 百万円
- 町人口 10,247 人

ポイント 水辺環境を利用した交流基盤の整備、交流活動の推進

地区概要 阿賀野川水系の水辺空間を利用した、スポーツ公園を軸とした整備を図り、町民、都市との交流活動の推進を図る

目 標 交流活動を推進し、夢と希望に溢れた活気ある健康里創りを図る。

指 標

国体を控え、キャンプ合宿地は、もとより、地域住民をも取り囲んだ、活動の向上、参加意識の向上を目標とした。

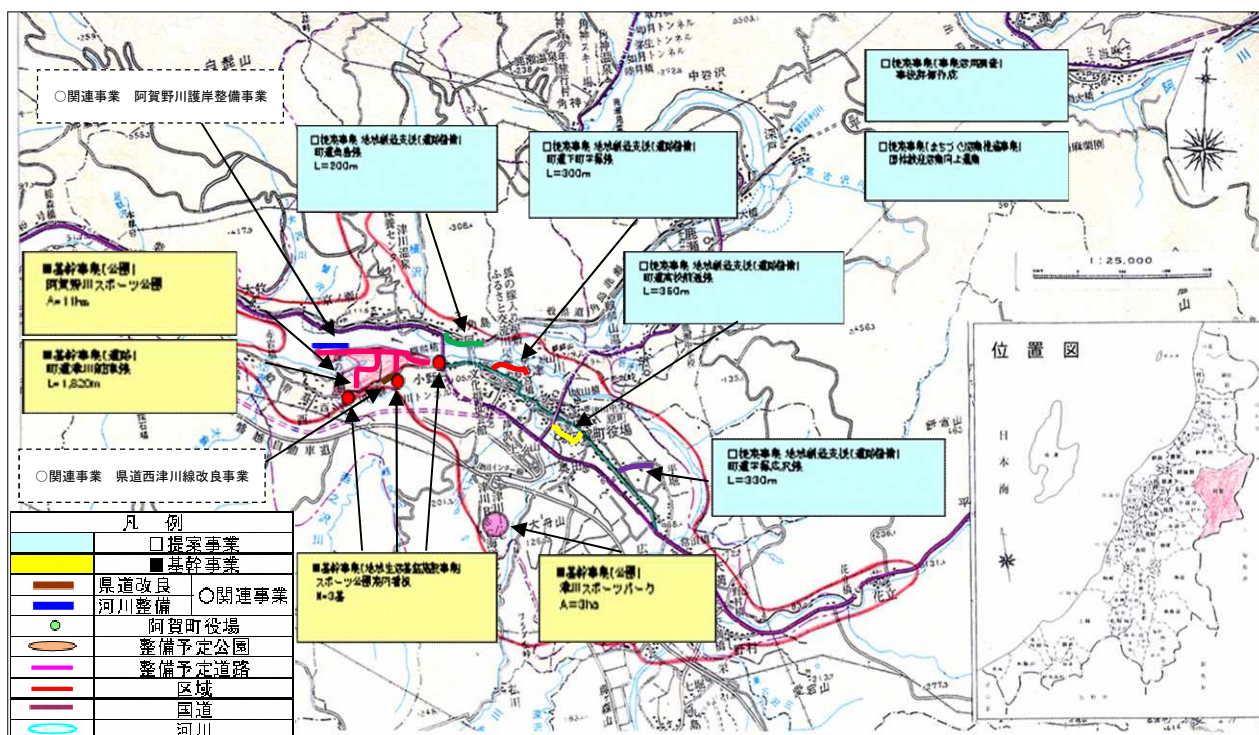
各地区スポーツ施設の利用者数	70,369 人(H17)→ 75,000 人(H23)
「奥阿賀体験旅行」	4,275 人(H17)→ 4,350 人(H23)
阿賀町観光施設入込数	1,525 千人(H16)→ 16,000 人(H23)

事業内容

基幹事業 (403.7 百万円) → 道路 (幅員 7.0～8.0m、延長 1,820m) 公園 (2 箇所 A=14 h a)

阿賀野川スポーツ公園・観光案内看板 (3 基)

提案事業 (71.8 百万円) → 国体歓迎向上運動、地域創造支援事業 (道路: 4 路線、1,180m)、事業活用調査



地区の現況と課題

第1・2次産業の衰退やモーターリゼーション進展等の生活様式の変化により、過疎化、少子高齢化対策が当町の重要政策課題の一つとなっている。

そのため、町の一つの活性化策として地域文化、自然とふれあいの都市交流、地区交流、学習交流を目的に各種事業に取り組んでいる。これらの交流には、自然・文化資源を有効積極的に活用し、町民、地元学校、NPO、各種団体等との連携、協力を得て、全国的に有名になった「きつねの嫁入行列」、阿賀野川を利用した、奥阿賀遊覧船、阿賀野川ライン舟下りの就航、民間企業とタイアップした越後上川ふれあい祭り等その成果が着実に向上しているものもある。

平成21年度に開催した「トキめき新潟国体」において、当地区はボート競技の会場となり、たくさんの選手、コーチ、応援団等の観光者が、この街を来訪した。無事、新潟県団も立派な成績を残すことが出来、また、訪れた声の中には今迄にない立派な施設ということで今後、スポーツを基軸とした一層の地区内外・世代間の選手等の思い出となる地の外、合宿や今後の大会の開催候補地として期待される。

同時に、国体開催後にも交流が持続するように、イベント活動、住民活動等を通じて、住民一人一人の健康づくりや交流の活性化を継続的に図れる、活気ある地域環境の創造が必要である。

提案事業の特徴

国体歓迎活動向上運動

H22 開催トキめき新潟国体において、地元開催のボート競技の会場整備はもちろんのこと、それにあわせた、地元の機運を盛り上げるべく、活動を実施の展開を図っている。



計画策定プロセス

ワークショップの開催

県・町と県ボート協会とのワークショップを検討開催し、国体会場の整備はもちろんのこと、将来の活用方策をも検討した。



国体開催中の観戦風景（阿賀野川スポーツ公園（基幹事業））



阿賀野川水面を利用したレガッタ大会



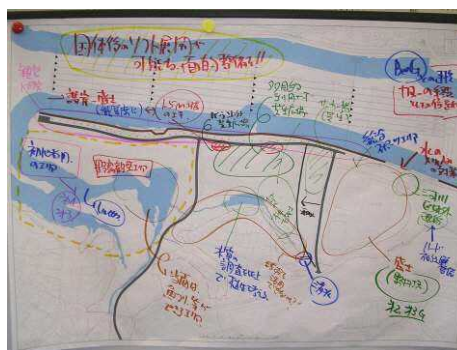
地元小学生による応援幟旗作成



地元保育園児による国体会場用プランター作成



ワークショップの様子



ワークショップでの意見集約図（スポーツ公園）